



やけどに気をつけよう

まだまだ寒い日が続きます。この季節の家庭内で、特に気をつけたいのが「やけど」です。子どもたちはもちろん、保護者の皆さんも「つい、うっかり」でやけどをしてしまわないように、やけどの原因となるものと、やけどをした時の応急手当を確認しておきましょう。

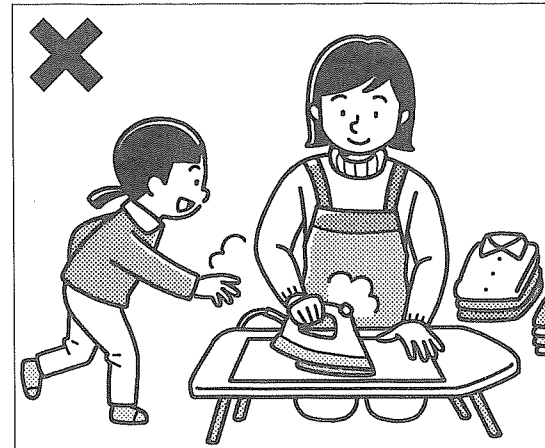
さわると あつい ものを おぼえよう



おうちのなかには さわると あつい ものが たくさん。しっかり おぼえて やけどを しないように きを つけよう。

保護者の方へ 炎が見えるものや、赤く光るものは、熱いことがわかりやすいのですが、温風や蒸気を吹き出す器具などは、見た目からでは熱さがわかりません。最近では遠赤外線を放射し赤く光らない電気ストーブもあるので、特に注意が必要です。また、ライターやマッチなどは、子どもの手の届かない場所に保管しましょう。

おてつだい? でも ちかづかない



おうちの おてつだいを する ことは たいせつだけど あつく なる どうぐや ひを つかう ときには ちかづかない。

保護者の方へ 日常の“お手伝い”を通して、家事に関心を持たせることは大切です。洗濯物をたたむ、箆や茶わんなどの軽いものを配膳するなど、子どもにもできる家事の経験を積みませましょう。しかし、衣類にアイロンをかけている時や調理中に、不意に手を伸ばすと危険なので、近寄らないように教えましょう。

やけどを しちゃった ときには



すぐに つめたい みずで ひやそう。そして おとなの ひとに しらせて てあてを たのもう。

保護者の方へ やけどをしてしまった時には、すぐに冷やすことが大切です。流水などで痛みが治まるまで冷やした後、皮膚科を受診しましょう。

2月号では、「公園で安全に遊ぶためのきまり」について取り上げます。

